

緩やかな中国の景気回復

ポイント① 通常レベルに戻っていない生産

6月15日に発表された5月分の中国の鉱工業生産指数は、前年同月比+4.4%と4月の同+3.9%から上昇しました。ただし、+5.0%程度という事前の市場予想のコンセンサスを下回りました。また、新型コロナウイルスの感染が拡大する前には+6%前後でしたので、通常レベルに戻ったとも言えません。

ポイント② 小売売上の前年比マイナスが続く

一方、小売売上高は5月には同-2.8%と4月の-7.5%からマイナス幅は縮小したものの、マイナス圏に留まりました。人々が移動や密集を避ける傾向が続いていることなどから、必需品以外の買い物や外食などの回復が遅れているようです。

他国より早く感染を抑制できた中国で小売売上高のような個人消費関連分野の回復が鈍いことは、他の国でも同様の傾向になる可能性を示唆しています。

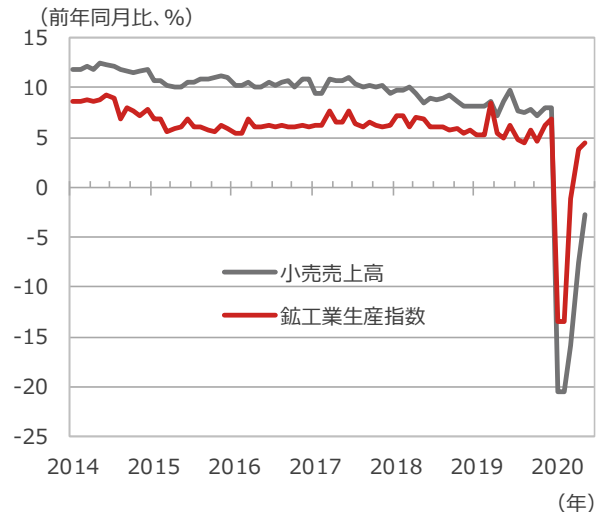
ポイント③ 貿易の回復も鈍い

6月7日に発表された5月の中国の貿易統計によれば、輸出（米ドル建て）は前年同月比-3.3%と4月の同+3.5%から再び鈍化しました。輸出の鈍化は、鉱工業生産が通常レベルの伸びに戻っていないことの一因となっているようです。一方、輸入は同-16.7%と4月の同-14.2%からマイナス幅が拡大し、中国の内需の回復の鈍さを示唆しています。

海外景気の急速な回復を期待しにくい中、雇用の改善を図るために、中国政府は金融・財政政策両面で景気刺激策を強化するものと考えられます。また、店舗での小売など既存分野での需要や雇用が回復しにくい中で、新たな成長分野への投資を促進する動きも、強まってくるでしょう。

図1：中国の鉱工業生産指数と小売売上高

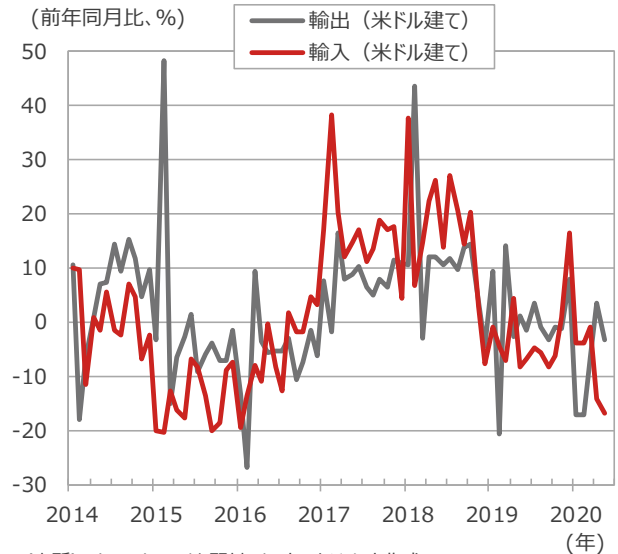
期間：2014年1月～2020年5月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：中国の輸出・輸入

期間：2014年1月～2020年5月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

6月16日 米鉱工業生産指数、小売
売上高（5月）
6月17日 日本貿易収支（5月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。